

平成 30 年度

川崎市立中学校 学習診断テスト

英語科

誤答分析と学習指導上の考察

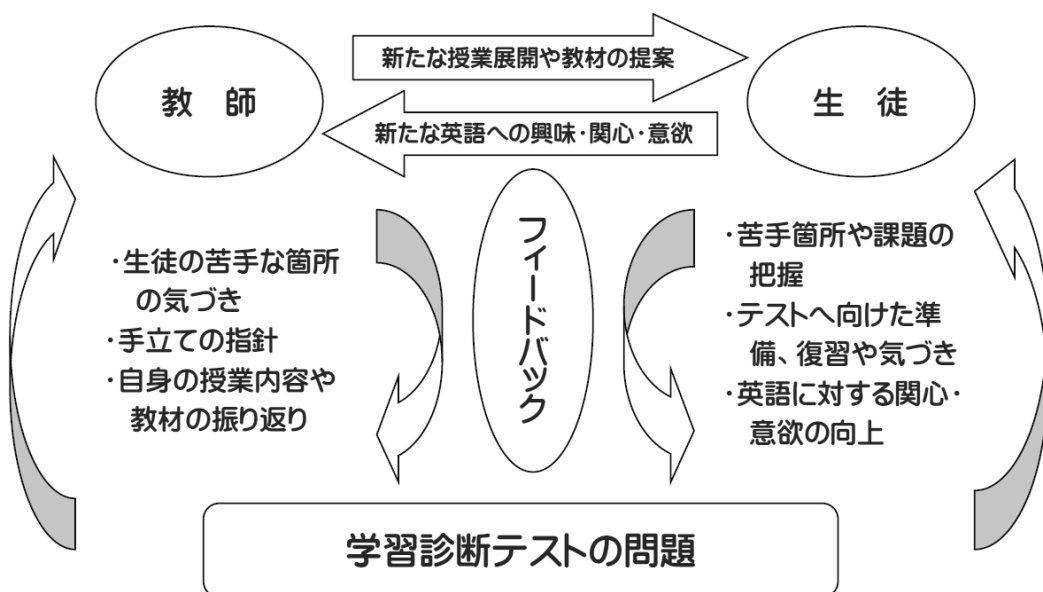
川崎市教育委員会
川崎市立中学校長会
英語科調査委員会

英語

I 作成方針と構成

1. 作問にあたって

- (1) 学習診断テストの目的・趣旨に沿って、学習指導要領に示されている各観点の基本事項について、10 月末までの学習の定着状況が把握できるよう、出題の範囲やバランスを十分に考慮して問題を作成した。
- (2) 基礎的・基本的な知識の理解状況を幅広く診断するため、問題の形式や配列を工夫して作問した。
- (3) 思考力・判断力・表現力等の能力を総合的に判断できるように工夫して作問した。
- (4) 共通の言語材料を検討し、より公平に診断できる標準的なテストの作成を目指した。
- (5) 聞き取りテストでは、音声の聞き取り能力とともに、より自然な英語が聞き取れるかどうかを診断できるよう工夫した。
- (6) 「表現の能力に関する問題」については、より観点をねらいを明確にした作問を工夫した。



2. 出題のねらい

	1年	2年	3年
問1	● 会話文の組立て (外国語理解の能力：知識・技能) 絵を見て、場面にあった適切な応答を選択することができる。	● 会話文の組立て (外国語理解の能力：知識・技能) 絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	● 会話文の組立て (外国語理解の能力：知識・技能) 絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。
問2	● 会話文の組立て (言語や文化についての知識・理解：知識・技能) 絵を見て、場面や状況を理解し、それぞれの質問に対して、適切な答えを選択することができる。	● 語彙の知識 (言語や文化についての知識・理解：知識・技能) 英文を読みとり、日本文にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	● 語彙の知識 (言語や文化についての知識・理解：知識・技能) 英文を読みとり、日本文にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。
問3	● 語彙の知識 (言語や文化についての知識・理解：知識・技能) 場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	● 語彙の知識 (言語や文化についての知識・理解：知識・技能) 会話文の内容を読みとり、それにあてはまる適切な語句を選択することができる。	● 語彙の知識 (言語や文化についての知識・理解：知識・技能) 場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。
問4	● 語彙の知識 (言語や文化についての知識・理解：知識・技能) 文の応答や日本語から判断し、その文に合った単語を最初に与えられた文字から判断し、正しい綴りで書くことができる。	● 単語の並べ替え (言語や文化についての知識・理解：知識・技能) それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	● 単語の並べ替え (言語や文化についての知識・理解：知識・技能) それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。
問5	● 単語の並べ替え (言語や文化についての知識・理解：知識・技能) それぞれの語の意味と性質をつかみ、日本語に合うように文を組み立てることができる。慣用的な言い方による語順の違いを理解することができる。	● 会話文の読み取り (外国語理解の能力：思考・判断・表現) 会話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選択することができる。	● 会話文の読み取り (外国語理解の能力：思考・判断・表現) 会話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選択することができる。
問6	● 会話文の読み取り (外国語理解の能力：思考・判断・表現) 会話の内容を正しく読み取り、その内容にあてはまる適切な文を選択することができる。	● 様々な形式の英文の読み取り (外国語理解の能力：思考・判断・表現) 広告やスピーチ、手紙などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な答えを選択することができる。	● 様々な形式の英文の読み取り (外国語理解の能力：思考・判断・表現) 広告や会話文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断し、質問に対する適切な答えを選択することができる。
問7	● 様々な形式の英文の読み取り (外国語理解の能力：思考・判断・表現) 広告や会話文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な答えを選択することができる。	● 長い文章の読み取り (外国語理解の能力：思考・判断・表現) 文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	● 長い文章の読み取り (外国語理解の能力：思考・判断・表現) 文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。
問8	● 長い文章の読み取り (外国語理解の能力：思考・判断・表現) 会話文の流れから適切な文や語句を選んだり、話の内容を読みとったりすることができる。	● 英作文 (外国語表現の能力：思考・判断・表現) 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。	● 英作文 (外国語表現の能力：思考・判断・表現) 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を完成させることができる。
問9	● 英作文 (外国語表現の能力：思考・判断・表現) 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。	● 英作文 (外国語表現の能力：思考・判断・表現) 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。	● 英作文 (外国語表現の能力：思考・判断・表現) 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。
問10	● 英作文 (外国語表現の能力：思考・判断・表現) 与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。		
放送1	● リスニング (絵を選ぶ) (外国語理解の能力：知識・技能) 短い文章を聞きとり、その内容を把握し適切な絵を選択することができる。	● リスニング (絵を選ぶ) (外国語理解の能力：知識・技能) 短い会話文を聞きとり、その内容を把握して、適切な絵を選択することができる。	● リスニング (絵を選ぶ) (外国語理解の能力：知識・技能) 短い会話文を聞きとり、その内容を表す絵を選択することができる。
放送2	● リスニング (絵を選ぶ) (外国語理解の能力：知識・技能) 会話を聞き、その場面や状況にあった絵を選択することができる。	● リスニング (会話内容) (外国語理解の能力：知識・技能) 短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。	● リスニング (会話内容) (外国語理解の能力：知識・技能) 短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。
放送3	● リスニング (会話内容) (外国語理解の能力：知識・技能) 会話を聞き、その話の流れから、次に続く適切な表現を選択することができる。	● リスニング (絵を選ぶ) (外国語理解の能力：知識・技能) 会話文を聞き、その会話内容に対する質問の答えとなる適切な絵を選択することができる。	● リスニング (会話内容) (外国語理解の能力：知識・技能) 会話文の内容を理解し、その内容に対する質問に適切に選択することができる。
放送4	● リスニング (会話内容) (外国語理解の能力：思考・判断・表現) まとまった英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	● リスニング (会話内容) (外国語理解の能力：思考・判断・表現) まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	● リスニング (会話内容) (外国語理解の能力：思考・判断・表現) まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。

Ⅱ 第1学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率【英語 第1学年】

問題番号	趣旨		観点			問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
	大問	小問	知・技	思・判・表	表現				
1		a	○			◎	絵を見て、場面にあった適切な応答を選択することができる。	90	0
		b	○			◎	絵を見て、場面にあった適切な応答を選択することができる。	94	0
		c	○			◎	絵を見て、場面にあった適切な応答を選択することができる。	68	0
2		a	○			◎	絵を見て、場面や状況を理解し、それぞれの質問に対して、適切な答えを選択することができる。	73	1
		b	○			◎	絵を見て、場面や状況を理解し、それぞれの質問に対して、適切な答えを選択することができる。	89	0
		c	○			◎	絵を見て、場面や状況を理解し、それぞれの質問に対して、適切な答えを選択することができる。	76	1
3		①	○			◎	場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	79	0
		②	○			◎	場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	79	0
		③	○			◎	場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	45	0
4		a	○			◎	文の応答や日本語から判断し、その文に合った単語を最初に与えられた文字から判断し、正しい綴りで書くことができる。	39	18
		b	○			◎	文の応答や日本語から判断し、その文に合った単語を最初に与えられた文字から判断し、正しい綴りで書くことができる。	58	11
		c	○			◎	文の応答や日本語から判断し、その文に合った単語を最初に与えられた文字から判断し、正しい綴りで書くことができる。	58	13
		d	○			◎	文の応答や日本語から判断し、その文に合った単語を最初に与えられた文字から判断し、正しい綴りで書くことができる。	40	27
5		a	○			◎	それぞれの語の意味と性質をつかみ、日本語に合うように文を組み立てることができる。慣用的な言い方による語順の違いを理解できる。	69	3
		b	○			◎	それぞれの語の意味と性質をつかみ、日本語に合うように文を組み立てることができる。慣用的な言い方による語順の違いを理解できる。	46	3
		c	○			◎	それぞれの語の意味と性質をつかみ、日本語に合うように文を組み立てることができる。慣用的な言い方による語順の違いを理解できる。	72	4
		d	○			◎	それぞれの語の意味と性質をつかみ、日本語に合うように文を組み立てることができる。慣用的な言い方による語順の違いを理解できる。	55	3
6		a	○			◎	会話の内容を正しく読み取り、その内容にあてはまる適切な文を選択することができる。	84	1
		b	○			◎	会話の内容を正しく読み取り、その内容にあてはまる適切な文を選択することができる。	77	1
		c	○			◎	会話の内容を正しく読み取り、その内容にあてはまる適切な文を選択することができる。	65	1
7		a	○			◎	広告や会話文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な答えを選択することができる。	75	1
		b	○			◎	広告や会話文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な答えを選択することができる。	76	0
		c	○			◎	広告や会話文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な答えを選択することができる。	32	1
8		A	○			◎	会話文の流れから適切な文や語句を選んだり、話の内容を読みとったりすることができる。	79	2
		B	○			◎	会話文の流れから適切な文や語句を選んだり、話の内容を読みとったりすることができる。	69	2
		C	○			◎	会話文の流れから適切な文や語句を選んだり、話の内容を読みとったりすることができる。	28	1
		D	○			◎	会話文の流れから適切な文や語句を選んだり、話の内容を読みとったりすることができる。	67	3
		E	○			◎	会話文の流れから適切な文や語句を選んだり、話の内容を読みとったりすることができる。	65	5
9		a	○			◎	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。	52	12
		b	○			◎	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。	31	9
10		(1)	○			◎	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。	43	9
		(2)	○			◎	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。	51	0
放1		a	○			◎	短い文章を聞きとり、その内容を把握し適切な絵を選択することができる。	99	0
		b	○			◎	短い文章を聞きとり、その内容を把握し適切な絵を選択することができる。	100	11
		c	○			◎	短い文章を聞きとり、その内容を把握し適切な絵を選択することができる。	75	0
放2		a	○			◎	会話を聞き、その場面や状況にあった絵を選択することができる。	83	0
		b	○			◎	会話を聞き、その場面や状況にあった絵を選択することができる。	79	0
		c	○			◎	会話を聞き、その場面や状況にあった絵を選択することができる。	71	0
放3		a	○			◎	会話を聞き、その話の流れから、次に続く適切な表現を選択することができる。	76	0
		b	○			◎	会話を聞き、その話の流れから、次に続く適切な表現を選択することができる。	81	0
		c	○			◎	会話を聞き、その話の流れから、次に続く適切な表現を選択することができる。	82	0
放4		①	○			◎	まとまった英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	62	17
		②	○			◎	まとまった英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	60	12
		③	○			◎	まとまった英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	54	16
		④	○			◎	まとまった英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	60	9

◎…主たる観点

平均正答率 (%)		
知識・技能		71.2
思考・判断・表現		55.5

2. 主な誤答と分析【英語 第1学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
1	a	3	90	0	2 1	7 3	a や b では、絵を見て状況を判断し、場面に合った適切な表現を選択することは概ねできていた。
	b	1	94	0	2 3	4 2	c では、場面に合った表現を選べていない解答が見られた。
	c	2	68	0	1 2	30 2	様々な場面での対話練習を繰り返し、場面に応じた会話の流れを重視した指導を継続したい。
2	a	4	73	1	3 2	14 8	a では、be動詞と一般動詞の答え方を混同している生徒が多かった。また、c では、曜日などの語彙の定着が不十分であった。
	b	1	89	0	2 3	5 5	日ごろからsmall talkやクラスルームイングリッシュを取り入れることで、語彙を増やしていくことが求められる。
	c	3	76	1	4 1	11 8	また質問に対する応答 (be動詞・疑問詞) についても繰り返し練習を行っていく必要がある。
3	①	1	79	0	3 2	11 10	③では、語彙の知識不足による誤答が多く見られた。
	②	2	79	0	1 3	16 5	①や②の誤答では、疑問詞の使い分けができていないことや、一般動詞とbe動詞の違いが理解できていないことによるものが見られた。
	③	2	45	0	3 1	47 8	語彙については、1回の学習で終わりではなく、何回も授業の中で繰り返し活用する場面を作っていきたい。
4	a	young	39	18	yangu years	7 5	単語の読み方をローマ字でそのまま書く解答が多く見られた。
	b	swimming	58	11	suiminng suwming	4 3	綴りと音の結びつきを普段から意識させ、4技能をバランス良く取り入れた言語活動を行いながら、単語の綴りを定着させたい。
	c	eleven	58	13	ereven erebun	10 5	
	d	busy	40	27	buzy bezy	3 3	
5	a	3 2 4 1	69	3	2 3 4 1 3 2 1 4	15 8	英語の慣用的な表現について、語順があまり定着していないものがあると思われる。特に、否定文における冠詞の位置や、疑問詞+名詞の表現については今後も継続して指導する必要性が感じられる。
	b	4 3 1 2	46	3	3 4 1 2 4 3 2 1	15 9	授業の中で教科書を繰り返し音読をすることによって、英文の構造を定着させたい。
	c	2 4 1 3	72	4	4 1 2 3 4 1 3 2	9 3	
	d	2 1 4 3	55	3	1 4 3 2 3 1 4 2	32 1	
6	a	1	84	1	2 3	11 4	会話の内容を正確に読み取ることにについては、概ね理解できていた。c については、同じ内容が違う表現で書かれていたための誤答が多かった。
	b	3	77	1	1 2	17 5	日ごろから様々な表現に触れさせるような言語活動を行っていきたい。
	c	1	65	1	2 3	20 13	
7	a	4	75	1	1 2	9 9	文章全体の流れを正しく理解していないと見られる誤答が多かった。特にc では、与えられた情報を整理し、組み合わせることができなかったための誤答が多く見られた。
	b	4	76	0	2 3	9 8	授業の中で様々な形式の英文を読む機会をつくり、情報を整理する力を身に付けさせたい。
	c	2	32	1	1 3	49 10	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
8	A	3	79	2	4 2	12 5	内容は難解なものではなかったが、長い文章を読むことに慣れていないため、内容を正確に読み取ることが不十分だったと思われる。 C、Dについては、前後のやりとりの中から、個数や時間などの情報を正確に読み取り、答える必要がある。 ある程度まとまりのある文章を読む機会を作り、正確な情報を把握する力をつけさせたい。
	B	1	69	2	2 3	22 4	
	C	4	28	1	3 2	36 19	
	D	2	67	3	1 3	14 9	
	E	3 5	65 41	5	6 2 1 4	30 25 15 12	
9	a	What is that ?	52	11	What food? What is this		場面に合った表現を書こうとしていたが、疑問詞の使い方や三単現のsの脱落など文法的な誤りを含む文が多く見られた。
	b	She is good at tennis.	31	12	She play the piano well. She goods at kanji.		単語の意味や用法、文の構造などを言語活動の中で使いながら、しっかりと定着させていきたい。
10	(1)	I'm on the soccer team.	正43 確さ	9	(1) I love Japanese food. (2) I study English every day.		文のつながりを意識した文章を書くことに慣れていない解答が多く見られた。冠詞や動詞の使い方が正しくない解答もあった。 Chapter Projectなどを活用し、1つのテーマについて、まとまりを意識して書く活動を取り入れていきたい。
	(2)	I practice soccer every day.	内51 容		(1) swim very mach. (2) Bat, I don't like tennis.		
放1	a	3	99	0	2	1	情報を聞き取ることは概ねできていたが、細部を聞き逃しているための誤答が見られた。 普段から英語で授業を進めることで、自然なスピードでの英語に慣れさせたい。
	b	2	100	0		0	
	c	1	75	11	2 3	7 7	
放2	a	2	83	0	3 1	13 4	cでは、会話の一部分だけ聞き、会話の流れを把握していない誤答が多かった。 日ごろの授業から会話の流れや、場所や時間などの必要な情報を聞き取る活動を取り入れたい。
	b	2	79	0	1	21	
	c	3	71	0	2 1	21 8	
放3	a	2	76	0	1 4	16 5	それぞれの質問に対する応答は概ねできていた。 aでは、応答の際の代名詞の使い方についての誤答が多く見られた。 言語活動を通して、相手の質問を正しく理解し、応答する力を高めさせたい。
	b	4	81	0	3 1	11 7	
	c	3	82	0	2 4	10 5	
放4	①	お寺に行きます	62	17	日本の寺 日本語の勉強		登場人物を混同したための誤答が目立った。また、動詞と目的語をうまく聞き取ることができていない解答や、結び付けられていない解答も多くみられた。 まとまった英文を聞く際には、メモを取るなど、情報整理の手立てを身に付けさせていく必要があると思われる。
	②	漢字を勉強しています	60	12	漢字の練習 日本の大学生		
	③	日本食を作る	54	16	漢字を書く 漢字		
	④	映画を見ます	60	9	映画 テレビを見る		

III 第2学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率【英語 第2学年】

問題番号	趣旨	観点			問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
		知・技	思・判・表	表現				
大問	小問							
1	a	○		◎	会話文の組立て	絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	78	1
	b	○		◎		絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	60	1
	c	○		◎		絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	77	1
2	①	○		◎	語彙の知識	英文を読みとり、日本文にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	54	23
	②	○		◎		英文を読みとり、日本文にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	62	20
	③	○		◎		英文を読みとり、日本文にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	53	18
	④	○		◎		英文を読みとり、日本文にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	51	20
3	a	○		◎	語彙の知識	会話文の内容を読みとり、それにあてはまる適切な語句を選択することができる。	72	1
	b	○		◎		会話文の内容を読みとり、それにあてはまる適切な語句を選択することができる。	72	1
	c	○		◎		会話文の内容を読みとり、それにあてはまる適切な語句を選択することができる。	50	1
	d	○		◎		会話文の内容を読みとり、それにあてはまる適切な語句を選択することができる。	36	1
	e	○		◎		会話文の内容を読みとり、それにあてはまる適切な語句を選択することができる。	29	1
4	a	○		◎	単語の並べ替え	それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	63	2
	b	○		◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	69	2
	c	○		◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	56	2
	d	○		◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	72	2
	e	○		◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	23	3
5	a	○		◎	会話文の読み取り	会話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選択することができる。	68	1
	b	○		◎		会話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選択することができる。	45	2
	c	○		◎		会話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選択することができる。	53	2
6	a	○		◎	様々な形式の英文の読み取り	広告やスピーチ、手紙などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な答えを選択することができる。	52	3
	b	○		◎		広告やスピーチ、手紙などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な答えを選択することができる。	41	2
	c	○		◎		広告やスピーチ、手紙などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断して、質問に対する適切な答えを選択することができる。	12	3
7	A	○		◎	長い文章の読み取り	文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	44	3
	B	○		◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	43	4
	C	○		◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	51	5
	D	○		◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	71	4
	E	○		◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	46	5
	F	○		◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	36	6
8	a	○		◎	英作文	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。	8	21
	b	○		◎		与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。	38	17
9	①	○		◎	英作文	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。	15	18
	②	○		◎		与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。	22	20
	③	○		◎		与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。	27	20
放1	a	○		◎	リスニング	短い会話文を聞きとり、その内容を把握して、適切な絵を選択することができる。	87	1
	b	○		◎		短い会話文を聞きとり、その内容を把握して、適切な絵を選択することができる。	73	1
放2	a	○		◎	リスニング	短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。	79	1
	b	○		◎		短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。	70	1
放3	a	○		◎	リスニング	会話文を聞き、その会話内容に対する質問の答えとなる適切な絵を選択することができる。	57	1
	b	○		◎		会話文を聞き、その会話内容に対する質問の答えとなる適切な絵を選択することができる。	69	1
放4	①	○		◎	リスニング	まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	25	12
	②	○		◎		まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	56	9

◎…主たる観点

平均正答率 (%)		
知識・技能		61.4
思考・判断・表現		39.7

2. 主な誤答と分析【英語 第2学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
1	a	3	78	1	1 2	16 6	aでは、絵を見て状況を判断し、場面に合った適切な表現を選択することは概ねできていた。bでは、全体の会話の流れを把握せず、絵や直前・直後の応答で判断したものが多く見られた。様々な場面での言語活動を繰り返し、場面に応じた会話の流れを重視した指導を取り入れたい。
	b	1	60	1	2 3	24 15	
	c	2	77	1	1 3	13 9	
2	①	wonderful	54	23	wednesday wondafull	3 2	綴りと発音とが一致せず、誤答になってしまう解答が目立った。特に③④は、意味を理解して単語を推測できているが、綴りのミスがあった。単語だけではなく、文章の音読から発音と綴りの結びつきを意識させた練習をし、定着を図りたい。
	②	learn	62	20	leave later	4 2	
	③	important	53	18	inportant	14	
	④	future	51	20	futuer futher	5 4	
3	a	2	72	1	4 1	16 7	cでは、設定された場面での助動詞の適切な使い方ができていないための誤答が多く見られた。dでは、「私も～しません。」という否定の形の定着率が低かった。eでは、There is/are ～の構文は身につけているものの、会話全体を通して時制を正しく捉えられていない誤答が多かった。日頃の言語活動を行う中で、前置詞、時制についても意識させた指導をしていきたい。
	b	3	72	1	4 1	14 8	
	c	4	50	1	3 1	23 21	
	d	4	36	1	2 3	38 18	
	e	3	29	1	1 2	44 14	
4	a	3 1 2 4	63	2	1 2 4 3 3 2 1 4	6 6	cでは、go toとto不定詞の用法の混同による誤答が見られた。eでは、"How will be the weather ~?"の語順で解答する誤答が目立った。基礎的な英文の理解を充実させ、実際に繰り返し活用することで、基本的な文構造の定着を図りたい。
	b	4 1 3 2	69	2	4 1 2 3 1 4 3 2	11 2	
	c	1 4 3 2	56	2	3 1 4 2 1 3 4 2	8 5	
	d	4 1 2 3	72	2	1 2 4 3 4 1 3 2	5 3	
	e	3 1 4 2	23	3	3 2 1 4 1 4 3 2	43 9	
5	a	A=1 B=2	68	1	A=2 B=1 A=2 B=3	7 6	b, cでは、どちらか一方のみが正答で、全体の内容までは把握しきれていないと思われる誤答が半数を占めた。引き続き、教科書の内容を要約するなどし、理解した内容を整理しまとめる力の育成を図りたい。
	b	A=2 B=2	45	2	A=3 B=2 A=1 B=2	18 14	
	c	A=3 B=1	53	2	A=2 B=1 A=1 B=2	20 5	
6	a	3	52	3	2 4	19 15	aやcでは、情報量が多かったり、複雑であったりしたため、正答率が低かったと思われる。特にcでは、情報から計算をし、答えを導かなければならない。また、代名詞を正確に捉えていないための誤答も目立った。文章の概要だけでなく、必要な情報を読み取る活動を授業内に設け、読む力を伸ばしていきたい。
	b	3	41	2	1 4	32 14	
	c	1	12	3	4 2	55 20	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
7	A	4	44	3	1 3	34 11	読みやすい内容であったため英文を理解することはできていたが、会話の前後をていねいに読み取っていないための誤答が多かった。 A, Bでは、会話の流れを理解していない誤答が多かった。Cでは、設問にある接続詞のwhenを正しく理解せず答えた誤答が見られた。Eでは、直後のwantをwentと読み違い、選択肢のgoを安易に選択した誤答が見られた。Fでは、選択肢の英文を正しく読み取れなかったための誤答が見られた。 教科書だけでなく、様々な英文を読む機会を多く設定し、まとまりのある英文を速く正確に読み取ることができるよう指導したい。
	B	2	43	4	3 4	24 15	
	C	3	51	5	1 2	20 17	
	D	4	71	4	3 2	10 8	
	E	1	46	5	2 3	24 17	
	F	3 6	36 42	6	2 1 4 5	25 18 22 20	
8	a	Do you want to come with me ?	8	21	Do you like sports? Shall I watch baseball?	3 5	aでは、前後の内容が把握できず、適切ではない表現を用いた誤答が目立った。 表現活動を増やし、繰り返し既習表現を活用する場面を設定し、定着を図りたい。
	b	Shall I carry your bag ?	38	17	Shall I bring your bag? Shall I have a bag?	8 6	
9	(1)	I visited Kegonno-Taki two years ago	15	18	I went to Okinawa. I went to Osaka in last summer.		全体的に何か書こうとする意欲が見られたが、項目に沿って書かれていない文や、綴り、冠詞、前置詞などの間違いが多くみられた。(1)では、時期を書いていない解答が多かった。(2)では、be動詞と一般動詞を一緒に用いた文の誤答が多く見られた。(3)では、主語“I”, “it”を正しく区別できないための誤答が目立った。 自分のことについて説明する英文を書く活動を継続しつつ、冠詞や前置詞などの細部にも注意を向けられるよう指導していきたい。
	(2)	I took pictures there	22	20	I was eat takoyaki. I will meet my friends.		
	(3)	It was very beautiful	27	20	I'm interesting. There is very beautiful.		
放1	a	1	87	1	3 2	11 1	基本的な英文を聞き取る力は概ね身につけている。しかし、必要な情報を聞き逃してしまうための誤答が見られた。 英語による授業展開をし、自然なスピードでの英語に慣れさせたい。
	b	3	73	1	4 2	25 1	
放2	a	4	79	1	2 1	11 5	bでは、“So do I.”の表現が定着していなかった。 自らの意見を言ったり、それに対して受け答えたりするなど、様々な言語活動を設定していきたい。
	b	2	70	1	3 1	14 8	
放3	a	4	57	1	3 2	17 13	aでは、right, leftが正しく理解できていない誤答が多く見られた。bでは、位置関係の表現を聞き逃した誤答が目立った。 位置や場所に関する表現の定着を図りたい。
	b	1	69	1	2 3	17 10	
放4	①	風が強い	25	12	雨 曇り	25 12	①の完全正答率が20%台という低い結果となった。その理由として天候の表現、windyの定着率が低いことが考えられる。また、時間などの細かな情報を聞き取ることができず誤答につながったと考えられる。
		30分遅れます			遅れる 13時頃	11 3	
放4	②	8時	56	9	6時 お昼	3 3	日頃の言語活動を通して多様な表現を定着させ、語彙力を育てたい。そして、正確な情報を聞き取る活動を取り入れたい。
		夕食			テレビ 昼食	3 3	

IV 第3学年の結果と分析

1. 小問別の問題内容と結果正答率【英語 第3学年】

大問	小問	趣旨		観点			問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
		知・技	思・判・表	表現	理解	言語				
1	a	○			◎		会話文の組立て	絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	59	0
	b	○			◎			絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	62	0
	c	○			◎			絵を見て状況を判断し、場面にあった適切な応答を選択することができる。	83	0
2	①	○			◎	語彙の知識	英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	16	47	
	②	○			◎		英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	39	18	
	③	○			◎		英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	31	16	
	④	○			◎		英文を読みとり、日本語にあった語を、与えられた最初の文字から判断し正しい綴りで書くことができる。	55	23	
3	a	○			◎	語彙の知識	場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	64	0	
	b	○			◎		場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	57	0	
	c	○			◎		場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	76	0	
	d	○			◎		場面や状況に合わせて文脈を読みとり、適切な語句を選択することができる。	77	0	
4	a	○			◎	単語の並べ替え	それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	49	0	
	b	○			◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	55	0	
	c	○			◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	85	0	
	d	○			◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	43	0	
	e	○			◎		それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てることができる。文型による語順の違いを理解できる。	53	0	
5	a	○			◎	会話文の読み取り	会話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選択することができる。	65	0	
	b	○			◎		会話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選択することができる。	67	0	
	c	○			◎		会話の内容を正しく読み取り、その内容をまとめた文を作るよう適切な語句を選択することができる。	56	0	
6	a	○			◎	様々な形式の英文の読み取り	広告や会話文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断し、質問に対する適切な答えを選択することができる。	44	0	
	b	○			◎		広告や会話文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断し、質問に対する適切な答えを選択することができる。	22	0	
	c	○			◎		広告や会話文などから正しく情報を読みとり、その流れを的確に判断し、質問に対する適切な答えを選択することができる。	44	0	
7	A	○			◎	長い文章の読み取り	文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	47	2	
	B	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	38	2	
	C	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	65	1	
	D	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	57	1	
	E	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	45	2	
	F	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	37	2	
	G	○			◎		文章の内容を読みとることができる。文章の概要を理解したり、話の流れから話者の意図を読みとったりすることができる。	64	3	
8	a	○			◎	英作文	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した英文を完成させることができる。	26	28	
	b	○			◎		与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した英文を完成させることができる。	31	24	
9	(1)	○			◎	英作文	与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。	正24	16	
	(2)	○			◎		与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。	内39	16	
	(3)	○			◎		与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、つながりのある文章を正しく書くことができる。	0	0	
放1	a	○			◎	リスニング	短い会話文を聞きとり、その内容を表す絵を選択することができる。	59	0	
	b	○			◎		短い会話文を聞きとり、その内容を表す絵を選択することができる。	83	0	
放2	a	○			◎	リスニング	短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。	79	0	
	b	○			◎		短い会話文を聞き、その会話に続く応答として適切な文章を選択することができる。	86	0	
放3	a	○			◎	リスニング	会話文の内容を理解し、その内容に対する質問に適切に選択することができる。	83	0	
	b	○			◎		会話文の内容を理解し、その内容に対する質問に適切に選択することができる。	25	1	
放4	①	○			◎	リスニング	まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	69	9	
	②	○			◎		まとまった長い英文を聞き、要点を押さえて理解したことを、日本語で記述できる。	42	20	

◎…主たる観点

平均正答率 (%)	
知識・技能	58.6
思考・判断・表現	44.0

2. 主な誤答と分析【英語 第3学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
1	a	1	59	0	2	36	aでは、感嘆文の表現が十分に定着しておらず、正答率が低かった。 様々な場面での言語活動を繰り返し、その場面に応じた表現の定着を図りたい。
	b	2	62	0	3	37	
	c	3	83	0	2	10	
2	①	latest	16	47	letter looked	1 1	①では、latestという単語が定着しておらず、無答が目立った。 ③と④では、単語は推測できているが、rとlの違いが曖昧なため、誤答に繋がった。 話すことと書くことのバランスが取れた授業で、発音と綴りを意識して書く練習を取り入れていきたい。
	②	borrow	39	18	bought brought	14 6	
	③	easily	31	16	easier easiry	8 6	
	④	children	55	23	childen chirdren	6 4	
3	a	3	64	0	1 2	18 14	aやbでは、前後の内容が読み取れていないための誤答が多く見られた。 今後も様々な場面を設定し、その場面に合った適切な表現に多く触れさせたい。
	b	3	57	0	4 2	23 15	
	c	1	76	0	3 4	9 9	
	d	2	77	0	4 3	11 7	
4	a	4 2 1 3 5	49	0	4 2 5 1 3 4 2 1 5 3	29 7	aでは、後置修飾が定着しておらず、taken some pictures の誤答が目立った。 dでは、moreを使った比較級の定着率が低かった。 基礎的な英文の理解を充実させ、実際に活用することで、基本的な文構造の定着を図りたい。
	b	2 4 3 5 1	55	0	2 4 5 1 3 2 4 1 5 3	9 8	
	c	1 5 3 4 2	85	0	3 4 1 2 5 1 4 5 3 2	4 2	
	d	4 1 5 2 3	43	0	4 5 1 2 3 4 1 2 5 3	23 6	
	e	3 1 2 5 4	53	0	2 3 1 5 4 3 1 2 4 5	9 7	
5	a	A=1 B=2	65	0	A=1 B=1 A=2 B=1	12 6	全体を読まず部分だけ読んだり、目についた単語から想像したりして解答したことから、誤答につながっている。 教科書の内容を要約するなどし、理解した内容を整理しまとめる力の育成を図りたい。
	b	A=3 B=2	67	0	A=3 B=3 A=1 B=2	6 6	
	c	A=2 B=2	56	0	A=1 B=3 A=2 B=3	20 6	
6	a	2	44	0	3 4	29 23	aでは、can や have to、need to などの捉え方が正確ではないための誤答が目立った。 bでは、必要な情報を把握できなかったための誤答が多かった。 cでは、概要を把握して読み進めることができないための誤答が目立った。 授業で様々な形式の英文を読み取る機会を作り、概要や要点を捉える力を身につけさせたい。
	b	1	22	0	3 2	41 32	
	c	4	44	0	2	28	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
7	A	1	47	2	2 4	27 14	内容の概要は理解しているものの、話の主題や登場人物の考えなど深いところまで読み込むことができていないため、全体的に正答率が低かった。BやFでは、前後の文から安易に判断した誤答が多かった。全体を通して何が語られているのか、それぞれの登場人物がどのような考えを持っているのかを読み取るためにも、教科書だけでなく様々な英文を読む機会を多く設定し、まとまりのある英文を速く正確に読み取ることができるよう指導したい。
	B	4	38	2	3 1	29 22	
	C	2	65	1	3 4	13 11	
	D	3	57	1	2 1	16 15	
	E	4	45	2	3 1	20 19	
	F	1	37	2	3 2	25 18	
	G	1 4	64 55	3	2 3	28 24	
8	a	to watch Japanese TV	26	28	watching moveis in Japanese listen to Japanese songs		正答率は高くなかったが、概ね場面に応じた表現を考えられていた。文法的な間違いが目立ったことから、授業内で言語活動を行い、繰り返し活用することで定着を図りたい。
	b	teach you how to sing	31	24	singing in our class told you how to sing well		
9	(1)	I will go to America	正24 確さ 内39 容	16			文法や語彙などの些細な間違いや、文章のつながりが意識されていない解答が多数を占めていた。テーマが身近で生徒たちが今後の進路についてそれぞれ思いを持っていることから無答は少なかった。生徒たちが自分の意見を表現しなくなるような課題を提示し、相手を意識して正確に伝えることができるように、積極的に言語活動に取り組みさせていきたい。
	(2)	I want to make many friends there					
	(3)	I think English is important to communicate with people in the world					
放1	a	2	59	0	3 1	18 15	aでは、hasn'tが開き取れなかったための誤答が目立った。英語による授業展開をし、自然なスピードの英語に慣れさせたい。
	b	4	83	0	2 3	13 3	
放2	a	1	79	0	2 3	10 10	会話の内容をしっかりと把握できている。今後も引き続き、英語を聞く活動を多く取り入れていきたい。
	b	3	86	0	4 1	6 5	
放3	a	3	83	0	2 1	13 4	会話と設問の内容は概ね理解できていると思われる。bでは、いくつかの情報を把握し、解答に結び付けていく必要があったため、低い正答率となった。日常生活で使う範囲内の数字や計算などが正しく捉えられるように、メモを取るなど情報整理の手立てを身につけさせたい。
	b	1	25	1	2 3	47 27	
放4	①	傘を忘れないでください	69	9	雨の心配はない 上着を着たほうがいい		①では、大切な情報をとらえ、理解することが概ねできていた。②では、聞こえた単語を安易に組み合わせた解答が目立った。授業内で教科書以外のまとまった英語を聞かせる機会を作り、正確に情報を捉える力をつけさせたい。
	②	去年 暖かい	42	20	週末 山登り 寒い ウォーキング		

V 全体の考察と今後に向けて

1. 全体の考察

今年度も検査本来の目的や趣旨をとらえ、学習状況を把握できるように作問した。問題全体の英文については、場面設定も含め、より自然な実際のコミュニケーションを意識した文章作りを心がけた。長文問題に関してはなるべく平易な文章を使用し、文章量を多くした。また、10行程度の文章を丁寧に読む問題や、長文の概要を把握する問題などを出題し、多様な種類の文章を用いながら生徒の英文読解力を測った。

英作文問題については、学習指導要領の「書くこと」にある『自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと』という観点を考慮し、教科書の Chapter Project に沿った形で作問した。また、評価基準の難しさもあるが、生徒の表現の能力を知るために、単純な和文英訳にならない形式で出題した。評価基準については、アンケートで毎年ご意見をいただくが、今後も各校の CAN-DO リストや日頃の授業の実態に合わせた判断、生徒の書く意欲を伸ばす判断をもとにした集計をお願いしたい。生徒・教師がともに、「これまでの学習を通して何ができるようになったのか」という視点に立ち、妥当性を高め、各観点の力を判断できるような作問を今後も進めていきたい。

問題の趣旨ごとに平均正答率を見ると、1年生「知識・技能」71.2%、「思考・判断・表現」55.5%、2年生「知識・技能」61.4%、「思考・判断・表現」39.7%、3年生「知識・技能」58.6%、「思考・判断・表現」44.0%であった。「知識・技能」に関する問題と「思考・判断・表現」に関する問題との差が大きく開く状況が今年度も見られた。

今年度の集計結果からも、より一層「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を統合的に活用できる授業デザインの工夫を継続していく必要がある。新学習指導要領では、取り扱う語彙数が増え、新たな文法事項を取り扱うようになるが、日頃の授業の中で教科書にある Chapter Projectなどを活用し、生徒自身の考えや気持ちなどを簡単な英文で伝えたり、学校行事の思い出など関心のある事柄についてまとめた文章を書き、それを発表したりするなどの課題を設定し、外国語表現の能力を伸ばすよう努力したい。週4時間の授業の中で、対話活動などのオーラルコミュニケーション活動、英文を読み解く活動、文法の説明などを扱いながら、時間を要する英文を書く活動の時間をいかに確保するかが課題となる。まずは自分の身近な事柄について書く活動を継続することが表現の能力を伸ばす第一歩となるだろう。

2. 領域ごとの考察

(1) 知識・技能に関する問題について

- 1 学年一
 - ・問1は正答率が高かった。絵の状況をしっかりと理解できていた。
 - ・問2aではbe動詞と一般動詞の答え方を混同している誤答が多く見られた。またcでは曜日などの語彙の定着が不十分であった。
 - ・問3の適語選択問題では、会話の流れを理解せずに安易に教科書と同じ文となるような語を選択する誤答が目立った。
 - ・問4の単語を書く問題では、単語自体は分かっているが、音と綴りの関係性がまだ定着していないための誤答が多く見られた。繰り返し学習していく中で生徒自身の気づきを促していく指導を心掛けたい。
 - ・問5の並べ替え問題では、疑問文や否定文の作り方が定着していないと思われる誤答が目立った。また、dの疑問詞+名詞の語順の定着も毎年の課題である。
 - ・聞き取りテストは概ね正答率が高かった。問題3では応答の際の代名詞の使い方についての誤答が目立った。
- 2 学年一
 - ・問1は絵だけでなく、会話文も読んだ上で正答を導き出さなければならなかったのだが、絵を見て安易に答えを選択する誤答が多く、正答率は例年と比べ低かった。
 - ・問2の単語を書く問題は、意味を理解して正答の単語を推測できてはいるものの、綴りを正しく書けない誤答が目立った。
 - ・問3の適語選択問題では、対話の流れを理解できていないための誤答が多く見られた。

- ・問4の並べ替え問題では、eの”How will the weather be ~?”を”How will be the weather ~?”とする誤答が正答を大きく上回った。人称代名詞以外を主語とする未来を表す表現を含んだ文を疑問文にすることが定着していないことが分かる。
- ・聞き取りテストでは、位置や場所を表す表現の定着が不十分であるための誤答が目立った。

- 3学年ー
- ・問1は選択肢の前後の文をよく読まずに、絵のイメージから解答を導いたための誤答が目立った。
 - ・問2の単語を書く問題は限定された場面で使用される単語が多くあり、正答率が低かった。特に「最新の」の対訳としての latest は正答率が低く、無答率も半数近かった。
 - ・問3の適語選択問題は前後の内容が読み取れていないための誤答が多く見られた。
 - ・問4の並べ替え問題では、aの後置修飾の文やdの more を使った比較級の文など、基本的な文構造の定着が不十分であると思われる誤答が多かった。
 - ・聞き取りテストは概ね正答率が高かったが、複数の情報を理解し、その内容を総合的に結び付けて解答を導く問題の正答率は特に低かった。

(2) 思考・判断・表現に関する問題について

- 1学年ー
- ・問6は比較的長めの文を読み、会話の中に出てくる情報を正確に把握し、それぞれの人物についての正しい情報を選択する問題とした。会話の内容を読み取ることは概ねできていたが、cについては、本文の内容と選択肢の文が異なる表現で書かれているための誤答が多かった。
 - ・問7では教科書1ページ分程度のメール文、簡単なインタビューの会話、掲示板のお知らせという異なった形式の英語をいかに正確に読み取るかを求めた。特にcの掲示板のお知らせの問題では、与えられた情報を整理し、組み合わせることができなかつたための誤答が多く見られ、正答率も低かった。
 - ・問8の長文問題は、初めて目にする文章量の多さや、長文問題の形式にもまだ慣れていないためか、思い込みや細部まで正確に読めていないことによる誤答が目立った。
 - ・問9の英作文では、絵と会話内容から判断し、場面に合った英文が書かれており、無答率も低かったが、文法的な誤りや語数不足などが多く見られた。
 - ・問10の英作文は教科書の Chapter Project と類似した内容であり、基本的な自己紹介文だったため、無答率は低かったが、be 動詞と一般動詞の混同、冠詞の用法の誤りが多く見られた。また、文のつながりを意識した文章を書くことに慣れていない解答が多く見られた。
 - ・聞き取りテスト問題4は、まとまった英文を聞き、その情報を整理することは概ねできていた。誤答として、必要な情報を正確に聞き取ることができなかつたものと、聞き取れてはいるものの、記述が不十分であったものの二種類に分かれた。
- 2学年ー
- ・問5の対話の内容を要約する問題は、10行に満たない程度の会話文ではあるが、内容自体が複雑になっており、「だれが」「どうする」などの重要な情報を読み取らなければならない。しかし正答率の低さから考えると、正確に必要な情報を読み取ることができていないことが分かる。
 - ・問6では、与えられた多くの情報を整理し正確に内容を読み取る力が求められるため、正答率は低かった。特にcの、会話と時刻表を見比べながら正しい情報を選ぶ問題では、内容の複雑さもあり、正答率が特に低かった。半数以上の誤答が本文に出てくる時刻をそのまま選んでいることから、自らの力で情報整理しながら読みこむことができていないと推測される。
 - ・問7の長文問題は、平易な会話文であったため、内容の概要は理解できていたと思われるが、正答率は高くはなかつた。細部の読み取りができていないことに加えて、発問・解答の選択肢ともに日本語で書かれている問題の正答率が他よりも高いことから、問題や選択肢の英文を正確に理解できていないことも原因だと考えられる。
 - ・問8の英作文では、絵の状況と前後の会話内容を把握し、既習事項を使い適切な受け答えができるかを問題のねらいとした。正答率の低さや無答率の高さを見ると、助動詞をはじめとした既習事項を、場面に応じて活用することができていないことが見てとれる。

- ・問9の英作文は教科書の Chapter Project と類似した内容を出題した。無答率は高くはなかったが、綴りや冠詞、前置詞や動詞の語形変化などの誤答が目立った。
 - ・聞き取りテスト問題4は、飛行機の中でのアナウンスから天候を聞き取る問題であったが、普段授業で使っている天候表現を安易に記入した誤答が多かった。自分が聞き取れた単語と問題の中の日本語を曖昧に結びつけ、答えを導き出していることがわかる。
- 3学年一
- ・問5の対話の内容を要約する問題は、10行前後の会話文ではあるが、内容が複雑なため、情報を適切に整理する力とともに、読み取った情報を言い換えたり、まとめたりする力が必要である。教科書の文などを上手く活用したい。
 - ・問6では、パンフレットや広告などの情報を的確に理解し、かつその情報をもとにした会話や文章から、総合的に内容を読み解く力をはかった。教科書や長文問題とは少し異なった形式の様々な種類の英文を、自らの力で情報整理しながら読む活動を授業内でも行う必要があると思われる。
 - ・問7の長文問題は、時事的なトピックも含んだ内容ではあったが、文章を丁寧に読み込まないと正答を導くことのできない設問が多く難易度も高かったため、正答率は高くはなかった。話の主題や登場人物たちの考えなどを整理しながら、正確に読み取る力をつけさせたい。
 - ・問8の英作文では、絵の状況と前後の会話内容を把握し、これまでの既習事項を使い自分なりの受け答えができるかを問題のねらいとした。文の内容は概ね理解できていたようだが、自分が書くべき文の主語が指定されていたためか、文法的な間違いが目立った。解答用紙をそのまま返却して終わりにするのではなく、改めて問題の内容に触れ、自分だったらこの状況の中で親しい友人にどんな言葉をかけるか、また自分の解答のどこを直せば正確な文になるのかを教師が提示し、授業や定期テストなどで改めて問うことで、生徒の意欲を損ねることなく、定着を図りたい。
 - ・問9の英作文は教科書の Chapter Project を意識し、自分の今後について書くという身近なテーマを設定した。無答は少なく、自分のことについて書こうとする意欲は感じられた。文法や語彙などの細かい部分の間違いや文のつながりが意識されていない解答が多かったため、今後もそれらを意識して書く練習を継続させたい。
 - ・聞き取りテスト問題4は2つの括弧に適切な日本語を当てはめる問題だったが、②の正答率が低かった。聞き取った単語を安易に組み合わせた解答や、問題の中に書かれている日本語をもとに自分なりに内容を考えてしまっているような誤答が多かった。純粋に聞き取りの力を測れる問題となるように、来年度以降も作問の課題としたい。

3. 指導にあたって

平成30年度の学習診断テストの結果を分析して、学習指導の課題として見えてくることや、その改善のための指導の留意点などを、出題の趣旨別に記したい。

(1) 知識・技能に関する問題について

語彙の指導については、単語テストや宿題などで単語を書く作業を各学校で実施しているが、定着率は高くないようである。語彙や表現は、使用場面から切り離して教えるのではなく、言語活動の中で実際に活用する中で定着を図ることが重要である。授業での言語活動の充実を図りたい。また、音声では理解できていても正確に書くことができている解答が多く見られた。そこで重要になってくるのが授業内でのフォニックス指導だろう。3年間を通じての継続的なフォニックス指導が、「話す」活動だけでなく「書く」活動にもつながってくるはずである。

文法事項や頻出慣用句に関する問題では概ね正答率は高かったが、定着が不十分なことによる誤答や、前後の内容を考えずにいくつかの単語を見て解答を導いてしまう誤答が多かった。Q and Aなどの学習活動が機械的な暗記にならないように、どのような場面でそれらの文法や語句が使われるのかを意識させた上で活用させたり、積極的にプラスワンセンテンスしたりするなどの工夫をしていきたい。

聞き取りテストでは、初歩的な対話や説明、視覚的なヒントがある問題の正答率が高いが、文章が長くなると情報を整理して聞き取ることが難しくなっている。日頃から積極的に教師、ALTが英語で身近な話題で語りかけ、まとまった英文の内容の要点や概要を理解するような活動や、単なるYes/Noの答えにならない、様々な疑問詞を使用したopen-endな質問と、それに対する適

切な受け答えを行うなどの言語活動を継続したい。

(2) 思考・判断・表現に関する問題について

「読む」活動に課題が見られた。必要な情報を正確に読み取れていない部分があり、これは文章を音読する活動や大意を掴む活動は行っている、「丁寧に読む」活動が不十分なためによるものだと考えられる。本調査では、比較的短めの文を会話の流れや代名詞、前置詞などに注意して的確に読む問題、パンフレットなどを俯瞰的にかつその中の情報を正確に読み取る問題、そして比較的平易ではあるが長くまとまった文章を読み取る問題と、大きく分けて3種類の「読む」問題を入れているが、どの学年どの問題においても、概ね内容理解はできてはいるものの、必要な情報を正確に読み取れていない部分が見られた。このような読解の技能は日頃の取組により伸びていくと思われる。教科書の本文以外にも LEAD（英語教材作成支援システム）やインターネットを使用すれば、生徒の興味を引くことができる様々な種類の英文を容易に探し出すことができる。それらを有効活用し、ある程度まとまった英文の内容から必要な情報を把握させる活動を取り入れたい。その際、いつ・どこで・だれが・どうした、といった内容のあらすじの要約を時間の流れに沿って話を再構成させる **story retelling** の活動も有効であろう。

聞き取りテストでも同様の傾向が見られた。内容が少し複雑なものや文章量の多い問題では、大まかに聞き取った単語などから、曖昧に内容を推測したであろうと思われる解答が目立った。授業の中でリスニング活動を行う場合、その多くが教科書の中の比較的平易で短い文の聞き取りなのではないだろうか。「読む」活動同様、教科書以外の教材も上手く使い、長めの文を聞く活動も積極的に取り入れたい。

英作文問題では、問題自体は昨年同様大きく2種類の問題を出題した。一つは絵とその会話から自分なりに英文を考えて書く問題で、生徒各自の習熟度に応じた英語力と想像力で英文を考え、書いてもらいたいというねらいがある。そしてもう一つが自分自身について書く問題である。昨年度、一昨年度と2年間にわたって教科書の **Chapter Project** に沿った問題を出題したが、今年度はこれまで授業で扱ってきた **Chapter Project** をどれだけ活用し、自分自身についてまとまりのある文を書くことができるかを測った。また評価に関しても、今後はより多くの英作文を書くことが求められていくことを踏まえ、1文ずつ評価するのではなく、文章全体を見て「語彙や文法などがどれだけ正確に書けているか」と「書かれた英文がそれぞれ単発的なものでなく、前の文とのつながりを意識し、書いている内容をより深められているか」の2点を測るループリック評価を取り入れた。本来、ループリックは他の評価に比べて信頼性が保てるような仕組みになっていると言われているが、今回のテストでは書く文の量がこれまで同様2～3文のままであったことや、その評価基準について様々なご意見をいただいた。それらのご意見をもとに来年度以降も検討を重ね、妥当性、信頼性を兼ね備えた英作文の評価ができるような形を作り上げるとともに、これまで課題としてきた「生徒が自分自身で考えた複数の文を、つながりを意識してひとつのまとまった内容の文章となるように書く」というねらいにより近づいていけるよう、改善していきたい。

4. 授業改善にむけて

今年度の学習診断テストもこれまで同様、場面設定を含め、より自然なコミュニケーションを意識した文章作りを心掛けた。コミュニケーションを行うためには、目的や場面、状況の設定が不可欠である。例えば、意見を述べる際、目的や場面、状況に応じて考えを整理したり話す内容の構成を考えたり、相手に応じた表現を選択したりする。このように「目的や場面、状況など」に応じた言語の運用を考えることで「思考力、判断力、表現力」が育成されていく。同様に授業中に行われるコミュニケーションにも目的・場面・状況がなくてはならない。目的・場面・状況を設定した上で、ターゲットセンテンスを活用させることだけが目的とするのではなく、生徒たちの気持ちや考えなどを伝え合うような言語活動に結び付けていきたい。

また、新学習指導要領では、言語活動を通して情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成が求められている。その実現のために、テストを単なる評価や目標達成度の確認のためだけのものとするのではなく、今回取り入れたループリック評価なども含めて、「深い学び」を実現するための授業改善ツールとしてもさらに活用していきたい。